



～意見文・鑑賞文・批評文の3つより～

1 概要

国語の作文は誰しもが習ってきたものだ。そして、書く授業を行うと、悩みながら、頭を抱えながら書く生徒が多いように思う。それは、書くことに対する「抵抗」があるからだと思う。しかし、書くことは、自分の考えを表せたり、自分の思ったことを伝えたりできる。また、書いて表すことで考えが整理できる。

それから、ICTの普及により、素早く情報やデータを取り入れることができるようになった。「情報の収集」が効率的に行えるようになったため、生まれた時間を内容の検討や構成の検討に使えるようになった。しかし、同時にファクトチェック(情報の真偽を確かめる)力や、取り入れた情報をまとめていく力も必要になってきている。それは、昨今の長野県入試や全国学力状況調査においても、「書く力」が必要とされているからである。自分の考えが伝わる文章を書くには、根拠を明確にすることが大切である。それを理解して、生徒が書けるように意識させたい。今回はICTを用いた、3つの書く授業の実践を発表したい。

2 授業内容について

	単元名	授業内容
①意見文	意見文を書こう	・テーマを決め、それに対する意見を持ち、その意見を支える例示や根拠を示せるように、思考ツールを用いて自分でまとめ、意見文を書く。
②鑑賞文	和歌	・全体で教科書に載っている中の、3つの和歌を鑑賞する。 ・鑑賞する方法を学んだ後に、自分で教科書の和歌を一つ選び、鑑賞文を書き、友達と鑑賞し合う。
③批評文	『故郷』	・『故郷』を読み、視点で自分で選び、決めた視点について自分なりに分析・比較をして、批評文を書く。

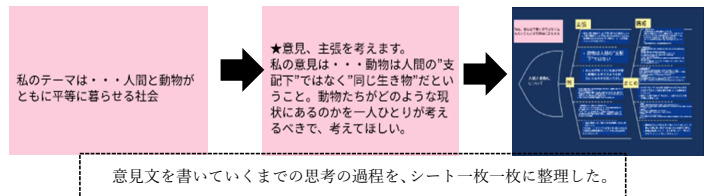
今回用いたアプリは千曲市が採用している「ロイロノート」である。思考ツールもロイロノートにあるものから使用した。



左上(フィッシュボーン) 右上(熊手チャート)
左下(クラゲチャート) 右下(ピラミッドチャート)

3 自分の意見を整理して、意見文を書こう

同じシートを配布し、友のシートが見えることで、どのようなテーマにしようか、どんな意見や主張が出ているのかを知ることができる。また、思考ツールで整理することで、書きたいことが明確になり、意見文が書きやすくなったのではないだろうか。このことは学習指導要領「書くこと ア 目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること。」の目標に立ち返りたい。特に、意見文においては、自分で題材を決めて、整理をすることが必要とされる。その時に、思考ツールは効果的である。今回は、思考ツールで整理したものをしながら下書きを書き、友と読み合い、清書をして意見文を仕上げた。



4 いにしへの心を受け継ぐ 君待つと ～和歌の鑑賞文を書こう～

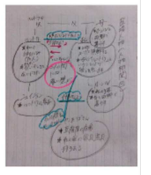
教科書には、和歌の意味を捉えるだけではなく、和歌を詠んだ人物や、詠まれた時代背景など、様々な観点から和歌を詠んでほしいと記述されている。単元の終末には、「鑑賞文を書こう」という活動があり、本時では「教科書の和歌を一首選び鑑賞文を書こう」を学習課題に据えて授業を行った。

まず、書き方を学ぶために、『古今和歌集仮名序』を読み、内容を確認した。次の時間に、私の方で選んだ3首を学んだ。その後、自分で一首を選び、一枚のシートにまとめてもらった。そこでは、「和歌」「現代語訳」「時代背景」「心情や情景」「鑑賞」という観点を示した。

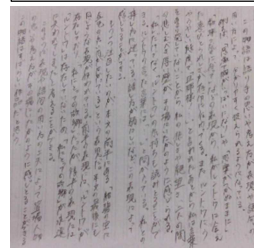
5 『故郷』の批評文を書く

授業展開

- 第1時 本文の通読・魯迅について学ぶ。登場人物の相関図を作る。
- 第2時 登場人物の相関図をペアで確認し合う。重要語句の確認。
- 第3時 回想場面と現在の場面をおさえ、場面の展開を考える。
- 第4時 批評文の書き方を確認する。自分で観点を選び、批評文を書く。
- 第5時 批評文を書き、四人グループで発表する。互いにアドバイスをし推察する。
- 第6時 班の代表者に発表してもらい。感想を聞き合い、単元の振り返りをする。



Tさんの人物相関図



・書いた目のふりかえり
どの項目で書くのかなどは決めることができたがそこからどのように書きはじめるのか、文の構成はどうするかなど考えるのが難しかったですが、ネットや教科書の批評文を参考にして作成していくことができました。決めた項目について主人公の気持ちになって書いたり、注したい部分を中心に書いたり、工夫も加えることができました。

振り返りから見えてくることは、批評文を多様な視点から考えて記述したことだ。いくつかの観点を考えながら批評文を書いたと考えられる。結論として、「登場人物の思いや考え方がその場面にどう感じることができている」という記述をしていることから、『故郷』が、読み手により伝わりやすいものにするために、表現の用い方に工夫がされていると答えを書き出したのではないだろうか。

NHKforSCHOOL 10min box

6 まとめ

「書けない生徒が生まれるのはなぜなのか」

私は、作文の課題を出したときに、書く活動を行ったときに、このことが頭をよぎる。その答えがなかなか出ないまま、授業を行っている。そこで、今回の研究のもとになった、国語の学習指導要領の最初に書かれている部分をふりかえりたい。

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。

言葉を知識としてインプットし、どこかで使う=アウトプットすることで言葉が自分のものになると思う。国語の教科書にある言葉一つ一つを理解することは難しいが、書く単位では言葉の意味を知って使ったり、言葉の本来の意味を考えたりする場面がたくさんある。必然的に、言葉を使う機会が増えるのである。それを繰り返すことで、社会生活に必要な言葉を習得していけるのではないかと。今回の研究で、その答えが導き出された。

最後に、いつもよりも意識をして「書くこと」の授業を研究した。研究して分かったことは、「思考を整理したり、観点を決めたり、道筋を伝えたりする支援をすることで、どの生徒でも書くことができる」ということだ。見方・考え方を働かせて書くために、書く見通しを考えさせることで、Tさんのように、色々な文章を書くことができるようになるのではないかと。そう感じる研究であった。「書くこと」を育むためには、書くまでの過程がとても必要であることを、改めて感じた。今後の授業にも、活かしていきたい。